

市民会館が閉館します

○石岡駅周辺には石岡市が所有する広大な土地があります。複合文化施設（文化センター・図書館・公民館・お祭り館等）は新たに土地を購入することなく、合併特例債を活用して石岡駅に隣接させることが最善の策と考えます。箱物行政との批判もありますが、中心市街地の拠点として役立つと確信します。

軟弱地盤との懸念もありますが、現在の土木技術で解決することは容易です。

○お祭り館では日祭日に本番さながらのお囃子を、平日にはその練習風景等を披露する事で観光資源としてはどうか？と提案致します。祭りの技術の伝承・後継者育成に役立つと考えます。

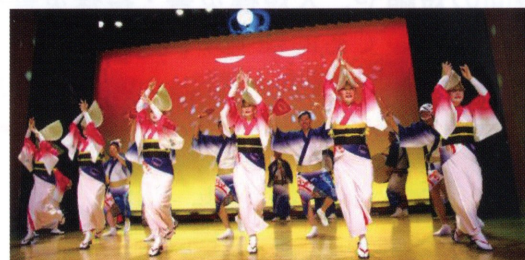


↑ バスの廻転広場



↑ 鹿島鉄道跡地

（駅に隣接する市有地の面積は約 23,000 m²）



↑ 徳島市の阿波おどり会館の様子

今泉市長が辞任しました

4月19日告示、4月26日投票その日の内に新しい市長が誕生します。

今、多くの石岡市民は市職員、議会に対して冷ややかな思いを持っていると聞きます。議会のゴタゴタを知って、市民の方から石岡の市役所と議会は50年遅れていると叱られました。さらに市民の血税で給料や報酬をもらっている意識が欠けている、真剣に市民のほうを見ているのか。申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

26日以降新市長が誕生したならば、それまでのわだかまりを捨て一致団結し、50年の遅れを取り戻さなければならないと考えます。

後記

石岡医師会病院は、昭和61年8月に開設されました。

市民から公立病院を熱望する声上がり、当時の山本吉蔵元市長が中心となり、石岡医師会が創り上げた病院です。

これまで石岡市民にとって、特に八郷の住民にとっては、救急診療や一般診療では、大変重宝した施設でした。

皆様のご意見をお聞かせください

石岡市議会議員
桜井のぶゆき

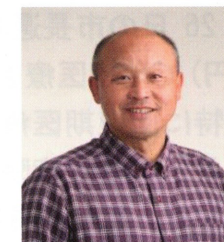
石岡市小幡1047番地
電話：090-3147-4979
FAX：0299-42-3863
mail：3901nobuyuki@gmail.com

議会活動報告 信ちゃんNavi

石岡市議会議員

桜井のぶゆき

2020年3月29日作成



新型コロナウイルスの猛威はとどまる気配がありません。石けんなどでの手洗い、アルコール消毒、うがい、マスクの着用の基本的な対策はもちろんのこと、咳やくしゃみが無くても、閉鎖的な空間で多くの人と会話をするだけで感染するリスクが高まります。

厚労省は保育園児用マスクや消毒液を一括購入し各保育所へ配布できる助成制度を行っています。石岡市も活用するように提案しました。

今後消毒液の不足が予測されことから、酸性電解水の生成器を自前で購入し、たくさんの人が集まる場所へすでに配布を開始致しました。

【酸性電解水】とは

微量の精製塩や希塩酸と水を電気分解して生成される水。酸性電解水に含まれる次亜塩素酸が高い除菌効果を発揮します。その高い安全性から洗浄・除菌への仕様が可能です。



↑ 酸性電解水の生成装置

石岡医師会病院が、医師やスタッフ不足により業務が縮小し、救急診療が無くなり、120床という病床が石岡市から無くなってしまいます。**※病床(入院できるベッドの数)**

この問題を回避するためには、医師会病院と石岡第一病院を再編統合し、公立化をしなければなりません。約1年前より、この事について話し合いはされてきましたが、「説明不足」との指摘があり、予算が否決されてしまいました。私を含む五人の議員は公立化の重要性を訴え、予算を認めるよう説得に努めましたが、結果として力が及びませんでした。

公立化の必要性（メリット）は以下の通りです。

- ①公立化ができないと医師会病院が持っている120床という病床が無くなってしまいます。石岡市の場合、今ある病床の約1/3が無くなるということです。
- ②公立病院になる事で、その病院が持つ病床に対して国から交付税が割り当てられ、その交付税だけで病院経営がなされる事となり、石岡市の一般財源からの持ち出しは全く有りません。また、30年という長期契約で、県の担当者の方はこんな好条件は例がないとの話がありました。
- ③石岡第一病院を運営する地域医療振興協会の経営母体は自治医科大学で、これからの地域医療には、筑波大学や自治医科大学などの協力が不可欠であると考えます。

私は、産科の新設、小児科の充実を図る上で、再編統合が最大の近道と考えます。

※現在の状態では、特に産科の新設は望めません。

- ④10～20年先の地域医療を考えた時、医師会病院が持つ120床の病床を再編統合することによって、その中の80床を石岡第一病院に、40床を山王台病院に再配分することで、石岡市に2つの中核病院ができます。この事は必ずや石岡市の地域医療の生命線となります。

120床の病床を残すためには、**公立化をする事が条件**となります。

4月26日の市長選挙に立候補を表明した元職員であり、再任用の健康福祉部参事(年間報酬約420万円)で地域医療を担当していたS氏は私たち議員に、この再編統合がなくなると石岡の地域医療、特に回復期医療が大変なことになると説明していました。しかし、いざ市長選に立候補を表明すると、公立病院の見直し、産科復活小児科充実は今ある民間病院への補助で考えると公約をしました。我々議員に対してのこれまでの説明とは真逆です。一貫性の無いS氏の考えを聞き、我が耳を疑いました。

今回、説明不足は否めないと責任をとって今泉市長は辞任しましたが、この地域医療を担当していた担当部署の幹部職員だったS氏には責任は無かったのか疑問が残ります。

例えば、自分の家族が救急車で土浦協同病院に運ばれ、入院治療後1～2ヶ月して転院という時に地元の病院に病床が無く、住まいから遠距離の病院に転院するというケースも増えてくるのは間違いありません。

市民の皆さん、この問題は大事です。真剣に考えましょう。

市民の健康づくり

病気や怪我に対抗するためには、体力を強化し、毎日の食事に気を配り病気に対する免疫力を高める日々の努力が大切です。

私は、四年間にわたり「筋力トレーニングと筋肉調整」の教室を、市民会館、園部コミュニティセンター、小幡公民館で週5回開催しております。

市民の健康づくりは、私の議員活動の主要施策の柱です。



← 茨城新聞に私の活動が紹介されました

口腔ケアの習慣化を

糖尿病・心筋梗塞・脳梗塞・高血圧・関節炎・皮膚病疾患など、歯周病菌が人体に多大な影響を及ぼすと言われています。

私の場合は、下記のような事を毎日行っております。

①起床後すぐに歯磨き、そしてうがいをする。

(刺激のないマウスウォッシュで30秒程うがいをし、更に真水でうがいをします。)

②朝食前に一杯の常温水を飲み、喉を潤す。

③食後に歯磨きをする。

④就寝前に歯磨きをする。

⑤歯磨き粉の量は、歯ブラシに半分程度が良い。

⑥歯ブラシは、紫外線の当たる所に置いて除菌する。



私の主張

- 石岡市が実施している事業は約3000項目あり、その内3割ぐらいの事業を見直す時期に来ていると考えます。見直しにより捻出できる財源は仮に子供たちの給食費無償化が図れるくらいの額になると予想します。
- 法政大学のグラウンドの売却の話が3月13日の総務委員会で報告がありました。敷地面積は約15ヘクタール(45,000坪)あり、優良物件で前向きに検討すべきと助言をしました。価格と利用目的次第では石岡市の財源増の一助になります。
- 「国民宿舎つくばね」が令和2年9月で閉館します。これまで歴代の市長が選挙のたび「つくばね」の再生を公約してきましたが、再生の筋道をつけないまま閉館するのは残念でなりません。私は「やささと温泉ゆりの郷」か「フラワーパーク」の隣接地に民間の資金やノウハウを活用した新たな宿泊施設を整備するよう提案していきます。
- 消防署の広域化を図ることで、市の財源が節約されると同時に、消防車両の到着時間の短縮や、大規模災害・特殊災害への対応力が強化できます。救急車両においても同様です。

(茨城県内44市町村の内、すでに28の市町村が広域化をしています。)



↑ 法政大学宿舎



↑ 老朽化の激しい国民宿舎つくばね

魅力あふれる農業

- 「儲かる農業・捨てない農業・スマート農業」を推進し、安心・安全な食材の提供、後継者の問題、耕作放棄地問題などの諸問題を考え自ら実践しています。
- 高齢化で廃園となったイチゴ園を東京の企業と連携し、化学農薬を使わない栽培を実践しております。キッチンカーを使い、苺パフェやイチゴ茶などの販売も行っております。
- 今後は、最新の冷凍技術と乾燥技術で産物を無駄にしない試みも実践していきます。
- 国や県の助力を頂き、AIを駆使したスマート農業を目指し、後継者問題、障がい者雇用にも取り組んでいきたいと考えております。
- 小水力発電を活用し、農業・防犯灯・害獣避けの電柵等への利用を図っていきます。



↑ 小水力発電の実験の様子
(防犯灯に換算すると11基分の発電量があります)